カタログ

Structured Data Manager

インテリジェントなアーカイブによる構造化データ管理

Micro Focus Structured Data Manager

急激なデータ量増加への解決策

MICRO FOCUS

インテリジェントなアーカイブによる構造化データ管理

今日、ほとんどの企業が、データの急激な増加という課題に直面しています。さまざまな形式の膨大な量の情報が、多数のリポジトリに分散されています。このような情報の氾濫と多様化により、予算、セキュリティ、アプリケーションパフォーマンスに関するさまざまな課題が生まれています。業界と政府の規制はますます厳しくなり、確実なコンプライアンス手順とともに、すべての電子的保存情報を対象とした「正当化可能な削除」(不要な情報の削除や削除要求への対応) 機能の導入が必要となっています。多くの企業でデータの量は12 ～ 18か月ごとに倍増しており、迅速な対応が求められています。

急増する情報への対処をさらに難しくしているのが、多くの企業の悩みの種である多数の膨れ上がったアプリケーションデータベースの存在です。これらのデータベースには長年にわたって蓄積された、ほとんど使われない構造化データが詰め込まれています。従来の考え方では、このようなデータを評価する手段はそれを作成したアプリケーションしかないので、データは通常、移動も削除もされません。その結果、ビジネスアプリケーションのパフォーマンス低下、ストレージコストの増大、アプリケーションを必要なサービスレベルで動作させ続けるための、きりのない人件費といった問題が生じます。このようなデータは一般的に正当化できる廃棄ポリシーの対象でないため、企業にとって不要な責任が生じる原因となり得ます。

世界中の現在と将来のデータプライバシー規制の下で企業が直面する課題には、単に大量のデータを不正アクセスから保護することだけでなく、規制の要件に一致するデータを、アクセシビリティを低下させずに効率的に識別して保護するという困難な作業が含まれます。

今こそデータ管理の徹底が必要

アプリケーションデータに対する管理能力を備えることは、あらゆる規模の組織にとって最大の課題の1つであるとともに、チャンスでもあります。情報の急増をプロアクティブに管理できないと、データストレージのコストが不要に増加し、コンプライアンスリスクが高まり、データを利用してビジネスパフォーマンスを改善する機会を逃すことになります。

アプリケーションデータの管理に関連するコストとリスクは、急速に顕著になりつつあり、多くの組織にとって懸念増加の原因となっています。特に、ますます厳格化するデータ保護法規への対応が必要な場合や、IT合理化またはクラウド移行プロジェクトを進めようとしている場合には

特に重要です。Micro Focus® Structured Data Manager (Micro Focus SDM) を採用すれば、企業のアプリケーション資産全体を対象としたデータ管理およびガバナンス機能を導入して、このようなアプリケーション引退の課題に対処できます。SDMは、アプリケーションデータベース内の非アクティブな構造化データに対して、評価、分類、暗号化 (Micro Focus SecureDataとの統合を利用)、再配置を行い、これらの情報を低コストのデータリポジトリに移動して、管理、ガバナンス、正当化可能な削除を可能にします。

運用効率の向上

増え続ける構造化データ (その大半はほとんど使用されないもの) に対処するために、高価なティア1ストレージをひたすら購入し続けるという標準的なアプローチは、今日ではもう通用しません。アプリケーションのデータのかなりの部分が非アクティブであるという事実から生じる、パフォーマンスの低下、バックアップウィンドウの拡大、ストレージフットプリントの増加、データベース管理コストの上昇、コンプライアンスリスクの発生といった事態は、企業にとってすでに看過できないものになっています。

アプリケーションのアーカイブに対するもっと高度なアプローチが必要です。非アクティブな構造化データを管理して、コンプライアンス、運用効率、データ管理ポリシーを満たす方法です。組織のデータ管理目的を理解することは、データベースのアーカイブ戦略を実現するための第一歩です。

多くの企業は、構造化データの問題がどのように始まったかを把握していません。組織がプロダクションデータベースを最初に展開する際には、データのフットプリントは小さく、メンテナンスコストは管理可能で、アプリケーションのパフォーマンスは良好であり、ダウンタイムやコンプライアンスのリスクは比較的小さいのが普通です。

悪化する構造化データの問題

ところが、時間が経つにつれて、毎日のトランザクション量は増え、プロダクションデータベースのサイズは増大します。システムからデータが削除されることはありません。ビジネスオーナーが削除を許可しないか、アプリケーションに削除の機能がないからです。そのうちに、アプリケーションのエンドユーザーはパフォーマンスの低下を感じ始めます。そのためにパフォーマンスのチューニングが必要になり、やがては、アプリケーションのサービスレベルを維持するために、もっと高速な追加のハードウェアを購入しなければならなくなります。これにより、アプリケーションの運用コストと総所有コスト (TCO) が増加します。

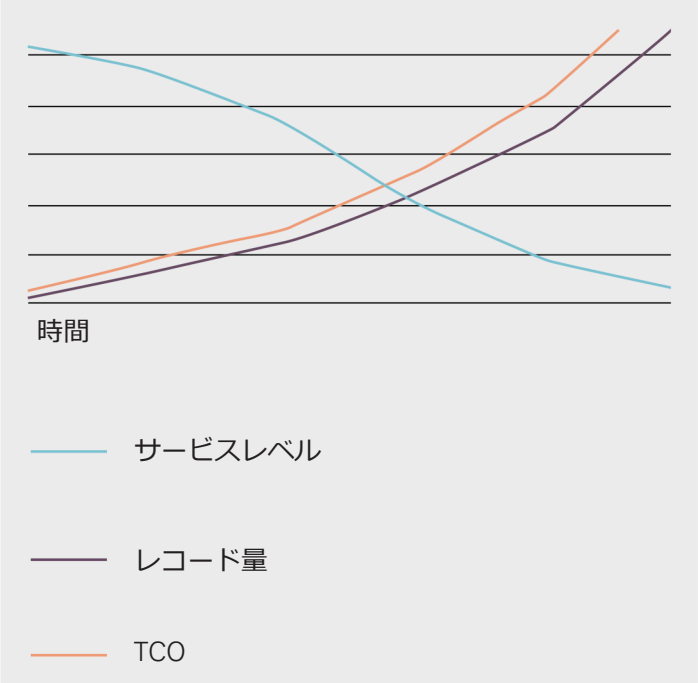

図1: 悪化する構造化データの管理コスト

こういった問題は、エンドユーザーのパフォーマンスだけに限らず、日常のバックアップサイクル、バッチ処理、一般的なデータベースの維持管理、アップグレード、および複製やテストにかかる時間といった関連する非運用作業にも影響します。

データが企業のポリシーとコンプライアンス要件に従って管理されていないため、ビジネスへのリスクも増加します。データプライバシーに関する規則の厳格化とともに、リスクは上昇し、莫大な法的コストや回復不能のブランドの毀損を組織にもたらす可能性があります。

ただし、このようなデータ管理の問題は、ビジネスルールに基づくプロアクティブなアプリケーションのアーカイブを採用すれば解決できるのです。これにより、構造化データの管理の問題は、コストを削減し、リスクを軽減しながら効率を改善するチャンスとなります。

効果的なデータ管理ポリシーは、以下の5つの基本的な課題に対応する必要があります。

1. 組織はどのようなデータをどのような理由で保持しているか?
2. 暗号化またはマスキングが必要なデータはどれか?
3. データはどこに保存されているか?
4. データにアクセスして利用できるか?
5. データを正当化可能な形で保有、維持、削除できるか?

構造化データ管理ポリシーにこの分析を導入することで、将来のデータの増加をプロアクティブにコントロールし、追加のストレージ容量とリソースの必要性を制限しながら、リスクを軽減できます。

Micro Focus SDMソフトウェアは、Micro Focusの情報管理およびガバナンスポートフォリオのコアとなるコンポーネントです。これは、組織の情報の増加に伴う課題に直接対処するために、非アクティブな構造化データを安全に保持しながらアプリケーションデータベースから削除します。この際、データの整合性、データのプライバシー、アクセスは維持されます。

構造化データの管理は、情報のアーカイブ戦略における明確な第一歩です。この課題は、企業のパフォーマンス、関連するリスク、コストに対して最も大きな影響を及ぼすからです。アプリケーションへのデータ管理プロセスの導入は、ほぼ即座に投資対効果 (ROI) をもたらします。非アクティブなデータを低コストのデータティアに移動し、正当化可能な削除を適用することで、アプリケーションのパフォーマンスの問題に対処しながら、リスクとコストを低減できるからです。

フットプリントとストレージコストの削減

SDMアプリケーションアーカイブソリューションは、あらゆる規模の組織が直面する、非アクティブな構造化データに関する固有の問題に対処します。多くの組織には、非アクティブな古いデータを手動で分析して移動する余裕はありません。このプロセスには時間もリソースも必要なので、SDMは、自動化されたプロセスによって、非アクティブなデータをアプリケーションから移動し、検証し、削除します。これにより、データベースのメンテナンスコストを大幅に削減できます。

放っておけば、データのフットプリントとコストは果てしなく増加し続けます。このため、データを管理するためのストレージ最適化ポリシーを実装する必要があります。SDMを採用することにより、IT部門にとって最も優先度の高いフットプリントとストレージコストの両方を削減できるので、このような課題への対処が容易になります。

上記のジレンマを解決するには、非アクティブなデータを低コストのリポジトリに再配置します。これにより、プライマリシステムに保存されているアプリケーションデータの量を最大50%減らして、ストレージと管理のコストを削減できます。さらに、非アクティブなデータをプロダクションデータベースから削除することで、2つの重要な利益が得られます。1つはパフォーマンスの安定化、もう1つはアプリケーションのパフォーマンス高速化によるユーザー生産性の向上です。

また、SDMでデータ量を削減することで、バックアップのパフォーマンスを高速化し、バックアップのための長時間のビジネス中断のリスクを減らすこともできます。さらに、最終的に正当化可能な削除に至るデータのライフサイクル全体を管理することで、コンプライアンスリスクを大幅に減らすこともできます。さらに柔軟性を高めるために、データを経済的なオンプレミス、パブリック、またはプライベートクラウドストレージシステム、またはハイブリッド構成に移動することもできます。ライフサイクル管理から正当化可能な削除まで、ユーザーは適切な情報を適切なタイミングで入手できます。

データプライバシーの保護

データプライバシールールは、特定のクラスのデータに適用されます。SDMのPII検出機能を使えば、機密のデータや文書を発見して、適切に処理できます。社会保障番号、クレジットカード番号、氏名、住所などの機密データの検出が標準で用意されている一方で、組織や業界の特定のニーズに合わせて検出をカスタマイズできる柔軟性も備わっています。この自動処理により、従来の面倒なプロセスが不要になり、重要なコンプライアンス要件の1つにさらに効率的、効果的に対応できます。

保護は必ずしもアクセシビリティを低下させるわけではありません。SDMと統合されているMicro Focus **SecureDataでは、データの形式とサイズを維持したまま機密データを暗号化できるので、アクセスの容易さは失われません。**

保護には境界がありません。機密データがアーカイブにある場合でもプロダクションデータベースにある場合でも、プロダクションインスタンスを操作することで、データベースのデータをその場でマスキングしたりインテリジェントに暗号化したりすることができます。

ビッグデータへの拡張

今日、変化している企業の中心には情報があります。情報の量、速度、多様性、脆弱性の急激な増大により、企業や政府は核心から変化しつつあります。Micro Focusは、世界で最も複雑な情報を扱ういくつかの企業のビッグデータ利用を支援しています。それを支えているのが、オープンソース標準に基づき、包括的なパートナーエコシステムに支えられた、広範囲の柔軟なポートフォリオです。Micro Focus SDMは、ビッグデータ管理のためのフルサポートを提供しています。これにより、企業は、SDMだけでなく、Micro Focus VerticaなどMicro Focusポートフォリオの他の製品からの情報も利用して、迅速でプロアクティブな対応を短期間で実現できます。

内部的なナレッジとノウハウの入手

Micro Focusプロフェッショナルサービスは、実装のための強い味方であり、お客様が選ぶすべてのMicro Focusソリューションがお客様の環境に最適なものとなるようにお手伝いします。Micro Focusのプロフェッショナルサービスチームは、お客様のビジネス目的に合わせてソリューションを最適化するプロセスをガイドするとともに、多種類の情報を管理するための豊富な経験に基づくサポートを提供します。エンジニアリングや製品開発と直接のつながりを持つ当社のプロフェッショナルサービス組織は、Micro Focusソリューションに関する最高のサービスプロバイダーです。ビジネス情報戦略の定義でも、プロジェクトの計画でも、現在のソリューションの維持拡張でも、Micro Focusプロフェッショナルサービスは、ベストプラクティスによる設計、計画、展開を通じて実装をお手伝いします。

次のステップ

急速に変化しつつある今日のビジネス環境と情報環境の中で、組織が課題に対処するには、インテリジェントな情報アーカイブソリューションが不可欠です。データが爆発的に増加し、構造化データとアプリケーションが拡大し、規制が強化され、すべてのデータへの効率的なリアルタイムアクセスが必須となるにつれて、より大きなリスクとコンプライアンス義務、そして上昇するITコストに組織は直面します。SDMは、アプリケーション環境内の情報を管理するプロセスとメカニズムを提供することで、情報の価値を理解し、コンプライアンスを維持するための対策と正しいビジネス意思決定を行い、ストレージコストを下げてパフォーマンスを改善しながら、リスクを削減し、ITの効率を上げることを可能にします。

Micro Focus
英国本社
United Kingdom
+44 (0) 1635 565200

米国本社
Rockville, Maryland
+1 301 838 5000
+1 877 772 4450

www.microfocus.com

マイクロフォーカスエンタープライズ株式会社
jp-info-enterprise@microfocus.com

www.microfocus-enterprise.co.jp

www.microfocus.com

163-000031-001 | 4AA6-4990 | H | DS | 10/16 | © 2018 Micro Focus. All rights reserved. Micro FocusおよびMicro Focusロゴは、英国、米国、およびその他の国におけるMicro Focusまたはその子会社または関連会社の商標または登録商標です。その他の商標については、それぞれの所有者が権利を有しています。